

## 松坂大輔氏トークショー

副理事長 森林 慎介

1998年横浜高校3年生の時に甲子園春夏連覇を達成し、ドラフト1位で西武ライオンズに入団。最多勝や新人王など数々のタイトルを獲得後、2007年メジャーリーグのボストン・レッドソックスに入団しワールドシリーズ制覇に貢献、日米で大活躍された松坂大輔さんのトークショーが木材会館7F大ホールで開催されました。200名を超える聴衆(上は80歳代から下は小学生まで)が詰めかけ、司会進行は新宮志歩さん(フリーアナウンサー)が行い、松坂さんに数々の質問をし、その問いに答えていくという対談形式で行われました。

### 野球との出会いと学生時代

江東区出身の松坂さんは小学生の時に地元の東陽フェニックスに入団、1キロの重いバットで素振りやティーバッティングを行いその結果ボールを遠くまで飛ばせるようになったそうです。高校は神奈川県の名門横浜高校に進学しました。横浜高校の練習時間は他校と比べると時間は短いですが密度が濃く、非常に厳しいので辛かったそうです。試合の方がよっぽど楽でずっと試合が続いてくれれば良いといつも思っていたそうです。「目標がその日その日を支配する」という渡辺元智監督が常におっしゃられた言葉が座右の銘になっていて(意味は毎日の積み重ねが目標達成につながり、人間として成長していく)、何かあるとこの言葉を思い出し、行動に活かしているそうです。プロ野球選手を意識し始めたのは高校2年生の春、練習や試合をプロのスカウトが見に来るようになったからです。

### プロ野球入団とメジャーリーグ

1998年のドラフト会議で3球団競合(西武・日本ハム・横浜)の末、西武ライオンズに入団しました。東尾修監督からは特別扱いはしないから自分でレギュラーの座を掴めと言われたそうです。初のキャンプでブルペンに入り先輩たちのピッチングを見て、生意気で怖いもの知らずの若輩者だったのでこれな



開会挨拶する網中氏(製材組合理事長)



入場する松坂大輔氏



少年時代を語る松坂氏



今後の夢を語る松坂氏

らいけると思ったそうです。デビュー戦でいきなり初勝利をあげ、イチロー選手との初対決は3打席3三振の完勝、結局1年目に16勝で最多勝と新人王のタイトルを獲得しました。西武ライオンズ在籍8年間で7度の二けた勝利をあげ日本を代表する選手になり、いよいよメジャーリーグに挑戦することになりました。2006年のシーズン終了後ポストティングシステムでボストン・レッドソックスと6年契約を結びました。2007年のメジャーリーグの初年度に15勝をあげ、ワールドシリーズ制覇の原動力になり、2年目も18勝をあげ、3年目は20勝を期待されましたが故障で4勝しかできず不本意なシーズンを送りました。結局これ以降ケガや故障に悩まされ、二けた勝利をあげることができなくなりました。勝負事にタラレバは禁物ですが、松坂さんの通算勝利数は170勝で、もしケガや故障が無ければ楽に200勝は達成できていたと思われます。

### オリンピックとワールドベースボールクラシック (WBC)

オリンピックに2度、WBCにも2度出場されております。2000年のシドニーオリンピック3位決定戦(韓国戦)で負け投手になり、2004年アテネオリンピックの準決勝(オーストラリア戦)でも負け投手になり、松坂は大試合に弱いと言われ悔しい思いを味わいました。2006年WBC決勝戦(キューバ戦)の前に王監督から先発を告げられ感激し、男意気に感じたそうです。その結果キューバを破り優勝することができ、2009年の第2回WBCでも韓国を破り優勝し2連覇を達成しました。両大会とも松坂さんがMVPを獲得しました。これで大試合に弱いというレッテルを返上することができました。

### ケガとこれからの夢

2009年以降はケガや故障に苦しみ満足いく成績を上げられず、2015年日本球界に復帰後も状態は変わらず苦しい日々を送ったそうです。何度も気持ちが折れそうになったそうですが、野球を愛する気持ちが勝り、続けることができ、どんなに苦しくても無理やり笑顔を作っていたそうです。今回のトークショーでもいつもニコニコしている姿が印象に残りました。夢は今の日本の公園や広場は球技(野球・サッカー・バスケットボール等)を禁止にしているところが多いので、子供たちが気兼ねなく野球やサッカーができる施設を作りたいそうです。この発言を聞き大きな拍手が沸き起こりました。



ジャンケン大会の司会進行の松坂氏



盛り上がるジャンケン大会



ジャンケン大会で勝った野球少年



檜のサインボール (作・向殿氏)

## 結び

トークショーの最後はお待ちかねの全員参加のプレゼント大会。松坂さんのサインボール、サイン入りユニフォーム、そして松坂さんの弟さんの作っているグラブをクイズやじゃんけんで勝った方に贈呈しました。松坂さんが持参された2つのグラブは2つとも小学生の野球少年に当たり、いちばん大きな拍手が起きました。最後の最後に松坂さんを中心にして全員で写真撮影を行いお開きとなりました。今回のトークショーを主催していただいた東京木場製材協同組合の皆様、共催の東京原木協同組合の皆様、大変ありがとうございました。東京木材問屋協同組合の庄司理事長が松坂さんに檜のまな板と木力のシールを贈呈しました。松坂さんからボストンの自宅に持ち帰りますと感謝されました。



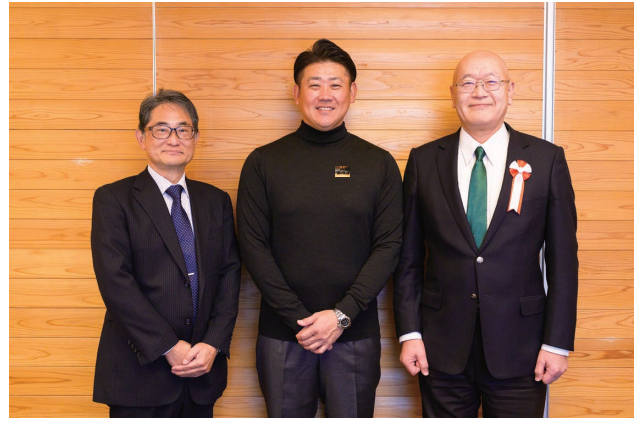
談笑する森林副理事長



記念品を手渡す庄司理事長(後姿)と高井氏



檜のまな板と木力シールにご満悦



3人で記念撮影(役得)



松坂大輔氏を中心に全員で記念撮影